

県民の幸せな**みらい**、県勢発展のために皆様の声をお聞かせください

秋田県議会 会派会報

みらい



リンドウ
(竜胆:リンドウ科リンドウ属)
花の開花時期は秋(8~11月)。野山に自生する多年植物。学名「Gentiana」。およそ400種類の品種。日本では18種類程があり、漢方では干した根が生薬に(苦味健胃剤)。花が咲かない品種もある。花言葉は「勝利」「正義感」など。※諸説あります。

No. 1

主な内容

令和元年

6月議会 要旨報告

討議資料

発行責任者/渡部 英治
編集責任者/東海林 洋

『令和』の幕開け — 県政課題へ果敢にチャレンジ!



福祉環境委員会 委員長
議会運営委員

佐藤 正一郎

皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

「平成」から「令和」へと新たな幕が開きましたが、新時代もまた人口減少・少子長寿社会に進む本県にとって、課題が山積しておりますので、秋田県の地域力を引き出し、若者が活躍できる活性化に全力を傾注してまいります。

県議会第2会派「みらい」は4月の県議選で全員が再選され、新たに鳥井修議員を迎えて8名の政策集団となりました。今後も是々非々の

基本スタンスで県政課題に果敢にチャレンジしてまいります。

皆様には引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



鳥井 修 (秋田市) 佐藤 正一郎 (湯沢市・雄勝郡) 三浦 英一 (由利本荘市) 渡部 英治 (大仙市・仙北郡) 土谷 勝悦 (横手市) 東海林 洋 (湯沢市・雄勝郡) 三浦 茂人 (秋田市) 吉方 清彦 (能代市・山本郡)

「みらい」の8人は、どの政党にも所属しない無所属の議員で構成されております

6月議会

令和元年・第2回定例会
6月4日～6月27日

今回の補正予算は、秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略に係る事業など「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」に基づく事業のほか、公共事業等について計上しました。

6月補正予算の主な内容

令和元年度 一般会計 補正予算 **102億2,599万円**
補正後の規模 **5,843億 1,499万円**

新 副食費助成事業 …… 8,336万円

幼児教育無償化に伴う給食費の国制度見直しを踏まえ、子育てに係る経済的負担の軽減を図るため、すこやか子育て支援制度における保育料助成に加えて新たに幼児の副食費に対し助成する。

新 先導的「市町村間連携」促進事業 … 2,499万円

人口減少社会においても必要な住民サービスの提供を確保するため、市町村間連携の促進に向けた調査研究等を実施する。

新 産学官共同電動化システム研究開発事業 …… 1億3,138万円

県内製造業の高度化・競争力強化を図るため、電動化技術に係る研究開発・人材育成の拠点創生の取組を支援する。

新 秋田県森林環境譲与税基金積立金 …… 9,000万円

県に配分される森林環境譲与税を、林業の担い手確保や森林整備を行う市町村支援等の財源として、基金に積み立てる。

新 小規模事業者ICT活用促進事業 …… 2,606万円

小規模事業者の生産性向上を図るため、商工団体等が伴走型で支援するICTの導入に対して助成する。

● ICTを活用した訪日外国人受入態勢整備事業 …… 3,521万円

インバウンド誘客を促進するため、多言語観光サイトをリニューアルし、情報発信の強化を図る。

● 受動喫煙防止事業 …… 1,093万円

たばこを原因とする生活習慣病を予防するため、受動喫煙のない環境づくりに向けた施策等を実施する。

● 次代につなぐ再造林促進対策事業 …… 600万円

再造林を促進するため、低コスト化を図りながら再造林を実施する林業経営体に対し助成する。

新 旧優生保護法一時金支給事業 …… 620万円

旧優生保護法に基づき優生手術等を受けた県民に対し、一時金を支給するための、請求受付事務を行う。

新 秋田県文化財保存活用大綱策定事業 …… 105万円

文化財の保存・活用に関する総合的な施策の大綱を策定する。

6月議会 一般質問

佐藤 正一郎 [湯沢市・雄勝郡]

- ◆ イージス・アショアの配備について
- ◆ 知事の政治姿勢について
- ◆ 主要農作物種子条例の制定について
- ◆ 高等学校の整備と在り方について



吉方 清彦 [能代市・山本郡]

- ◆ ギバサの養殖とブランド化について
- ◆ 再生可能エネルギーの今後について
- ◆ 再犯防止について
- ◆ 消費税増税への対応について

6月議会 総括審査

佐藤 正一郎 [湯沢市・雄勝郡]

- ◆ イージス・アショアの配備について
- ◆ 主要農作物種子条例の制定について

三浦 茂人 [秋田市]

- ◆ イージス・アショアについて
- ◆ 新スタジアム整備について



私たち 会派「みらい」は、
全員一致でイージス・アショアの
新屋演習場への配備計画は
撤回すべきと考えています！

【意見書案 第3号】

「イージス・アショアの
陸上自衛隊新屋演習場への配備計画撤回を
求める意見書」に対する賛成討論（要旨抜粋）
——— 令和元年6月議会（6月27日）

- 「なぜ、住宅地に近い場所に配備するのか？」という地元住民の方々の不安や疑問に対して、安全性の明確な根拠が示されていないため、地元の理解が得られていない。
- 5月に行われた防衛省による説明会で示された安全対策は、事故や破壊攻撃等に対する住民の安全を軽視したもので、十分というには程遠い。また、調査資料のミスも多く、はじめから「新屋ありき」で進められていることは明白である。
- ルーマニアやポーランドの先行事例も含めて、軍事的なことに民間人を巻きこまないことは世界中の共通認識であり、防衛施設を設置するならば、住宅地から離れた広い場所を確保することは当然に必要である。



● 国において、どうしてもイージス・アショアを配備するということであれば、適地ではない新屋演習場への配備計画を撤回し、住民の安全対策等を重要な基準として、新たな計画を慎重に検討すべきである。（東海林 洋）

県外調査

〈北海道／令和元年 7月10日～12日〉

下川町役場・しもかわ観光協会

〔上川郡下川町／7月11日〕



- 森林資源を活用した持続可能な地域づくりについて
- 木質原料製造施設 —の橋地区バイオビレッジ



下川町役場にて谷一之町長と



切削チップー機



木質バイオマスボイラー

あつま いぶり
厚真町 北海道胆振東部地震復興支援室
被災地現地視察

〔勇払郡厚真町／7月12日〕

- 北海道胆振東部地震からの復旧・復興の状況について



依然、現地には被害の跡が残る



秋田県議会 会派 **みらい** 所属議員

氏名／選挙区／当選回数／所属常任委員会／会派役職など



土谷 勝悦

つちや しゅうえつ

横手市／6期目／
農林水産委員／みらい顧問



三浦 英一

みづら えいいち

由利本荘市／5期目／建設委員、
議会運営委員会 副委員長／みらい幹事長



渡部 英治

わたなべ えいじ

大仙市・仙北郡／4期目／
産業観光委員／みらい代表



東海林 洋

しょうじ りょう

湯沢市・雄勝郡／4期目／
総務企画委員／みらい政調会長



三浦 茂人

みづら しげと

秋田市／3期目／
教育公安委員、議会選出監査委員



佐藤 正一郎

さとう しろういちろう

湯沢市・雄勝郡／3期目／
福祉環境委員会 委員長、議会運営委員



吉方 清彦

よしかた せいげん

能代市・山本郡／2期目／
建設委員会 副委員長



鳥井 修

とりい おさむ

秋田市／1期目／
福祉環境委員／みらい総務会長

佐藤正一郎の 県議会レポート



令和元年6月議会では、改選後初となる一般質問と予算特別委員会総括審査に立ち、「イージス・アショアの配備」や「主要農作物種子条例」「高等学校の整備と在り方」等について質疑を行いました。

「元気な秋田」を創造しよう!!
<http://www.sho-ichiro.net/>

さとう正一郎ホームページ

さとう正一郎

検索

◆ 一般質問（抜粋）

イージス・アショアと知事の政治姿勢

問 ミサイル基地の条件に新屋演習場が該当しないことは明白であり、知事がそのように表明することで、防衛省は新たな適地を採る方向に方針転換を図るのではないかと考えています。

知事 住宅地に近接している新屋演習場への配備により、住民の安全・安心が確保できるのか厳しく問いただしてきた。この姿勢はこれからも一貫して変わることはない。著しく信頼感を無くした状況では、協議を進めることに無理があると考えている。

県独自の種子条例を

問 昨年4月に廃止された「主要農作物種子法」を受け、県独自の種子条例を制定すべきではないかと考えています。

知事 種子法の廃止後もこれまで通り優良種子が供給されているので、条例制定の必要性はないと考える。コメや大豆の種子の安定供給は県の責務であり、種子生産農家などと連携しながら、品種開発から生産、供給にしっかり取り組んでいく。

産業教育と雄勝キャンパス

問 人材育成のための産業教育について、高校の統合により普通科の割合が増えているように感じる。来年度から湯沢翔北高校の地域校となる雄勝キャンパスに、「工業科土木建築学科」を設けてほしいという声が寄せら

られている。特色あるカリキュラムで地域に必要とされる人材育成に貢献されたい。

教育長 魅力ある学校づくりに向け、地域の関連団体等との連携により体験的な活動を充実させることや、普通科の中に産業教育に関連したカリキュラムを組み入れるなど、地域のニーズを踏まえた学びの充実を図る方向で、検討を重ねている。時代の変化に対応した産業教育を実践することで、秋田を担う人材育成に努めていく。

県議会記者席

○：「花火より大したことがないと思うか」。地上配備型迎撃システム（イージス・アショア）配備計画で、防衛省がミサイル発射装置（VLS）の保安距離を250mに設定した点について、佐藤正一郎氏（みらい）は

佐竹敬久知事に、「この見解を尋ねた。防衛省は5日の県議会全員協議会で、VLSの保安距離に法的根拠はないものの、噴煙は200m以上離れていれば人体への影響がない程度まで拡散すると説明していた。佐藤氏は「私が好きな花火大会に

花火と同じ距離で安全？

行きますと…」と切り出し、打ち上げ花火の安全な距離の基準が、尺玉（直径30cm）で250m、3尺玉同（90cm）で600mと定められていることを紹介。「ミサイルが飛んでいくのは大変な燃料を使う。納得がいかない」と懸念を示した。

これに対し佐竹知事は、新屋演習場の東側にあるゴルフ場を念頭に、「若い人は飛びますから、ゴルフボールで打ったら（VLSの近くに配置される）リーダー装置に当たる」と独特の例えで距離の短さを表現。250mは「絶対的に無理がある。そういうふうには感じます」と同調した。（斉藤賢太郎）